

自主調査研究報告【継続報告】

寒地空港整備と地域振興に関する調査研究 (他2B-3-①)	大分類	他2B
	中分類	他2B-3

1. 目 的

北海道内の7空港(旧国管理:新千歳、稚内、釧路、函館、旧道管理:女満別、旧市管理:旭川、帯広)は令和2年度から空港運営の民間委託(いわゆる民営化)に伴い、北海道エアポート株式会社(以下、HAP)が管理運営を行うこととなった。民営化にあたっては、ゲートウェイとなる各空港の有効活用や戦略的な空港間の連携を進め、観光客を北海道全体に分散、周遊させることでさまざまな経済波及を道内に広げ、北海道全体の地域活性化につなげることが目的の一つとなっている。しかしながら、令和2年からのコロナウイルス感染症拡大によって国内外の人流が途絶えたことから、HAPにおいては種々の事業が中止されたり先送りされたりしている状況にある。

そこで、ポストコロナの観光客の復活を見据えて、当センターの今までの港湾を中心とした地域振興にかかる調査研究の実績も生かしながら、上記7空港の観光目的の空港利用者増大及び満足度向上に資する調査研究を実施する。

2. 実施内容

道内7空港の利用者増大に向けた課題はいくつか挙げられるが、観光コンテンツが豊富な札幌圏(新千歳空港利用)への集中をいかに分散させるかが大きなテーマとなっている。そこで、従来の「食」や「自然」をターゲットにしていた従来の観光に加えて、今後の成長が見込まれるアドベンチャーツーリズム(例えばサイクルツーリズムなど)に着目することとし、札幌

圏への立ち寄りに拘らないアドベンチャー系の観光客の行動パターン等を分析することにより、地方空港の活性化ひいては地域振興につなげていくことを目的としている。

令和5年度は、7空港を発着点とするアドベンチャーツーリズムのモデルコースを作成した。次にインバウンド観光客の北海道への印象や北海道を取り巻く情勢、雰囲気・感情などを探るためにSNSのXから「つぶやき」を抽出した。キーワードは「Hokkaido」と「Sightseeing」、「Adventure」、「Cycling」、「Hiking」を組み合わせて抽出を行った。また、R5年度には北海道においてアドベンチャーツーリズム世界大会が開催されたことから、その関係者に北海道の空港において充実してほしい施設やサービスについてアンケート調査を行った。さらに、北海道サイクルルート連絡協議会(主催:DEC)に参加し、移動の起終点となる新千歳空港のサイクル環境から見た改善点を現地調査した。

3. 主要な結果

①アドベンチャーツーリズムのモデルコースはインバウンド観光客の移動は公共交通機関を使うことが多いことから路線バスを中心としたコースを設定した。

②「つぶやき」数は令和4年4月から令和6年2月までの23カ月間で観光がキーワードのものが241件、アドベンチャーが395件、サイクリングが131件、ハイキングが102件収集できた。これらについては計量テキスト分析を行い、特徴を整理した。

③アンケート調査からは、「荷物を当日の宿泊施設まで届けるサービス」、「荷物を空港で受け取ることができるサービス」、「自転車等を組み立てる工具類とスペース、及び自転車等をパッキングする工具類とスペース」を要望する意見が多かった。また、外国人からは、「着替えのためのスペース」への要望があることが分かった。さらに着陸空港には「情報収集場所」の機能を持たせる必要性が指摘されている。

④新千歳空港の現地調査では自転車に乗って

新千歳空港から国道等に出るルートが整備されていないことから今後関係者との協議を進めていくこととなった。

今後の対応

令和6年度は空港とホテルなどを結ぶ荷物移送サービスについて調査を進める。また、空港を発着点としたサイクルツーリズム振興のためルート図の作成や空港に必要なサービスについてHAP等と連携して調査を進める。